

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
令和6年度第1回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第23条の規定に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されている。

委員の任期は2年、委員数は13名で、うち1名は一般公募により選出されている。

会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催している。

【参考】博物館法

第23条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

令和6年12月4日（水）14時00分～15時50分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 セミナールームA

4 出席者

樋口正信委員（委員長）、生田目美紀委員（副委員長）、浅野直俊委員、
荒木郁子委員、坂本和弘委員、杉山重雄委員、高尾戸美委員、矢崎和子委員、
吉富友恭委員、鷲田美加委員、渡辺祐子委員

※事務局出席者

横山一己館長、菅野弘司副館長、江原章子管理課長、岸川将史企画課長、
国府田誠一教育課長、池澤広美資料課長、小池涉首席学芸員、栗栖宣博主査、
井土ひろみ係長、田宮奈津美主任、川村詩音主事

【文化課】

助川達也課長補佐

5 議事概要

(1) 会議の成立について

本日の協議会は委員13名中11名の参加があり、会議は有効に成立する。

(2) 議案説明（事務局）

○議題

- ① 令和6年度前期事業の報告について
- ② 令和6年度後期事業の計画について
- ③ 予算・決算などについて
- ④ その他

(3) 質疑・意見交換

○A 委員

- ・ 遠足で多くの子どもたちが来館していると思うが、児童生徒が事前に館を下調べできると当日も興味関心をもって見学できる。タブレットを活用した学習も普及しているので画像や映像で館の予習ができるコンテンツがあると良いと思う。
- ・ また、野外活動ではどういったことができるのか、教えてほしい。

○事務局

- ・ 事前学習について、このほど館のHPに展示室ごとの360°画像を掲載した。特に常設展は事前学習に役立つと思う。館内には無料Wi-Fiもあるので、タブレットを活用した学習でも利用いただきたい。
- ・ 野外でのクイズラリーなど、学習プログラムをいくつか用意している。HPからダウンロード可能なので、活用いただきたい。ただ、近年の夏の酷暑は野外での活動に懸念があるところ。野外の自然発見工房にはクーラーもあるので、そちらで涼みながら活動して欲しい。

○B 委員

- ・ 地元住民として、教員として、そして今は孫とともに、博物館には何度も来館している。地域の財産でもあるこの施設が30年間、進化を続けていることが素晴らしい。学習支援プログラムもブラッシュアップされているようで教育に携わってきたものとして頼もしく感じている。
- ・ 教員として、引率で来ていたときは昼食場所が懸念だった。雨天の際は、どのように対応されているか？

○事務局

- ・ 雨天時はもちろん、近年の酷暑・寒さ対策としても昼食を取れる屋内スペースの確保が必要と認識。昼食場所はセミナーハウスを利用してもらっている。館内の過度な混雑を避けるため、現在は1日の団体受け入れ人数を制限しており、セミナーハウスも時間帯での予約制にしている。セミナーハウスの事前予約制は今年度から開始したが、現在のところ大きなトラブルもなく運用できている。

○C 委員

- ・ 大学生の入館者数が大きく増えているのが興味深い。何か仕掛け、工夫をされた

のか？

○事務局

- ・ 高校生、大学生をターゲットにした積極的な広報は特に行っておらず、要因がはっきりしないが、この増加率は嬉しい驚き。

○C 委員

- ・ SNS がきっかけになる割合が多いと思われる。ここ数年の企画展の展示を見ていると、たいてい展示室内に「フォトスポット」が用意されている。ここで、来館者が撮影した写真が SNS に投稿され拡散するなどして、影響力をもっているのではないかと。SNS の時代、来館者向けにフォトスポットは今後もぜひ続けてほしい。

○事務局

- ・ 来館者による投稿が多くの人に受けているようす。SNS の影響力は大きく、これからの撮影スポットは続けたい。また、館公式 SNS でもインパクトのある投稿を発信できるよう研鑽につとめたい。

○C 委員

- ・ 危険樹木の伐採について、ナラ枯れの被害をよく聞くが、博物館の状況はどうか？また、枯れた樹木や倒木などへの対策はどうか？

○事務局

- ・ 大規模ではないが、当館でもナラ枯れは発生している。見つけ次第できるだけ速やかに伐採する処置をとっている。
- ・ 昆虫の森に多い、コナラの木がナラ枯れになりやすい。定期的・計画的に伐採していくことが必要。また、若い木に植え替えていくことも必要と認識。

○C 委員

- ・ クローズアップ現代でも最近ナラ枯れが特集されていた。来館者への安心安全のために、これからの危険樹木の管理につとめてほしい。

○D 委員

- ・ 移動博物館は年間どのくらい実施しているか？経費や時間など、教えて欲しい。
- ・ 子供会への加入者数は減少傾向であり、コロナ禍でさらに会員が減っている。子どもたちを博物館に連れくることができればと思うが、遠方では大変であるので、移動博物館を子供会向けにやっていただけたらありがたい。

○事務局

- ・ 移動博物館は今年度、学校 9 校、公共施設 3 箇所で実施する。非常にニーズが高く、昨年度より 1 箇所増やしている。
- ・ 施設側の費用負担は発生しない。ただ、標本資料の設置・撤収にそれぞれ丸 1 日、職員も 3～4 名程度は必要。当館職員の負担と、利用者側のニーズに応えるという点、両者のバランスを取りながら運用していきたい。

○E 委員

- ・ 「土中の虫たち」を学校に寄贈したとのことだが、活用のためのプログラムなども併せて提供したのか。

○事務局

- ・ 特にプログラム化はしておらず、本を寄贈したのみである。いろいろな活用方法があると思うので、多岐にわたる活用を期待したい。

○E 委員

- ・ 入館料の改正について、大学生料金が大幅に上がった。成人年齢の引き下げに伴うものだと理解しているが、来館者から値上げに対してリアクションはあったか？また、大学生向けのフリーパス制度などは設けているか？

○事務局

- ・ 当館では大学生フリーパス制度は実施していない。
- ・ 従来、「高校・大学生」の枠があったが、このたびの改正で委員ご指摘のとおり成人年齢引き下げにともない大学生は「一般」枠になったので大幅な値上げとなった。10月の改正から現在まで、特段ご意見は頂戴していない。

○E 委員

- ・ アウトリーチ活動について、郷土資料館、歴史館などでの出張展示はやっているか？「なぜここ（資料館など）で博物館の展示?!」というのも、来館者にとっては新鮮味があっていいと思う。

○事務局

- ・ 水戸の歴史館でお祭りを実施する際に出展しているが、好評をいただいている。
- ・ 地域資料の活用について、郷土資料館などから要望があれば貸出対応している。

○E 委員

- ・ 歴史館でのミニ移動博はとても面白いアイデアだと思う。
- ・ 郷土資料など一見異分野のものと、科学がうまくつながれるといいと思う。

○F 委員

- ・ かつて、幼稚園児を博物館につれてきて、化石発掘体験をやったことがある。
- ・ 季節ごとの自然を使った遊びの紹介コーナーや、スタンプラリー、簡単な工作教室などがあると、未就学児でもより楽しむことができると思う。

○事務局

- ・ 「たねであそぼう」、「落ち葉のお面でへんしんしよう」など、未就学児向けの体験学習プログラムもあるので、事前予約制にはなるが、ぜひ活用して欲しい。
- ・ 企画展のなかで、体験コーナーや観察コーナーを設ける取組をしている。

○G 委員

- ・ 走査電子顕微鏡コーナーはミクロの世界へ興味を広げるきっかけであると思う。他館でも置いてあるところは見かけるが、来館者が自分で操作できるところに大

きな意義がある。ぜひ着実に推進し、このコーナーを維持してもらいたい。

- ・ 学習支援プログラムを精査されたとのことだが、どのような部分を改善、又は追加されたのか、教えてほしい。

○事務局

- ・ これまでの担当が、継ぎ足しながら作成していたため、内容に重複が見られるなどかなり混在していた。また、時代に合わないものがあったので、順次、整理・統合したり修正したりした。

○G 委員

- ・ 研究費予算の件。よい展示のために研究は不可欠だと考えるが、その予算確保の状況はどうか？

○事務局

- ・ 当館は科研費団体になっており、最低限必要な研究費はそちらでまかなえている。
- ・ 学会参加旅費などは、県費で確保されている。
- ・ その他は、個人の努力で助成金の獲得などが必要である。

○G 委員

- ・ 科研費の分担者になっている方はいるが、代表者として獲得されてはいないので、今後代表として科研費やその他外部資金を獲得することができれば良い。それを促すサポートを検討してみてはどうか。

○H 委員

- ・ 30 周年を迎え、県民としても誇らしい。
- ・ ニッチなテーマの企画展でもかなり集客している。集客に悩んでいる館は多くなるなか、素晴らしいことだと思う。博物館をきっかけに、県外の人にもたくさん茨城を訪れてもらいたい。
- ・ 入館者数のデータで、「野外施設のみ利用者」が増えているが、なぜか。

○事務局

- ・ おそらく今年は、水の広場が再開したことに伴い、野外のみ利用される方が増えてたのではないかと考えている。

○H 委員

- ・ 毎回企画展の中での体験コーナーが面白い。今回も移動博やさわれる展示など、体験できるコーナーが豊富。ゴキブリホイホイも素晴らしい。2 月にリニューアルされるとのことだが、差し支えない範囲でその内容を教えてほしい。

○事務局

- ・ 植物、動物、地学各分野のコーナーをそっくり入れ替える。現在ゴキブリホイホイを設置しているプレイバック展示も入れ替える。移動博やさわれる展示のコーナーは後期もそのまま維持する。

○H 委員

- ・ 30 年たつと、施設の老朽化は免れないと思う。公費だけで運営をまかなうのは厳

しいと思うので、寄附をより広く集めることも検討されてはどうか。修繕した場所（物）の近くに、寄附者の氏名を表示するなどして謝意を表示するなど。

○事務局

- ・ 修繕に経費がかかっている、ソフト事業に経費がなかなかかけられない状況。賛助会費でソフトの充実にあてている。

○事務局

- ・ 限られた職員での運営のため、寄附数が多くなると業務負担が大きくなる。また、一度に多額の寄附、というのではなく、継続的にできるだけ館の運営を支援してくれるところから広く寄附をいただきたいと思っている。細々とでも構わないので、集まった金額の中でやりくりしていくつもりである。

○I 委員

- ・ 博物館を知ったきっかけとして、TV・ラジオが情報源になったと回答した方の割合が非常に低いことにおどろいている。
- ・ 企画展のテーマが毎回多岐にわたっているが、テーマ決めの際、ニーズの把握はどのように行っているか？データサイエンスなどを使っているのか。
- ・ 県北、鹿行などからの来館者が少ないとのこと、県の博物館としては利用促進が必要ではないか。

○事務局

- ・ 企画展テーマを設定する際には、ニーズ把握というよりも、館として、何を発信したいか（すべきか）を優先している。
- ・ ミニ移動博物館を実施し、県央地区、鹿行地区などでのPRを進めている。

○J 委員

- ・ 入館者数分析について、データサイエンス的なものの活用も検討してはどうか。例えば大学生がなぜ増えたのか、という点については利用者によるSNS発信（映えスポットの設置）などが効いているのではないかと思い、興味がある。
- ・ 海外では収蔵展示の流れがあるが、その導入の考えはあるか。

○事務局

- ・ 2年前のコレクション展がある意味収蔵展示になっていたと思う。また、今回の30周年企画展でもその要素がある。

○J 委員

- ・ 博物館法の改正に伴い重視されているデジタルアーカイブ活用についてはどうか。

○事務局

- ・ 資料についてはデータベース公開しているが、写真登録があまり進んでいない。

○J 委員

- ・ 展示資料に限らず、館の運営にかかわることをいろいろと記録写真を残していく

ことが大切かと思う。たとえばナラ枯れの整理の過程など、before・after があるとわかりやすい。

- ・ 包摂的な展示をすれば、文化庁から補助が受けられるかもしれない。

OK 委員

- ・ 30 周年ということで博物館の資料の蓄積を実感している。開館当初はたいてい、寄贈資料や他館からの借用資料で展示が成り立っている。だが、年数がたつほどに、展示資料の多くが館所蔵のものになっていく。コレクション展はほとんどが当館の所蔵資料で構成され、素晴らしいと思った。
- ・ ナラ枯れについての話題があったが、野外の安全対策としてもうひとつ、スズメバチ対策も、今後よろしく願いたい。

(4) その他

- ・ 文化課からのお知らせとして、茨城県立歴史館の PR（ホワイトライトアップ、恋展）があった。

以上